

次のことがいえます。つまり、 H^+ としての脱離しやすい水素原子は、

1. 電気陰性度の大きな原子と結合する C に付いた水素原子。
2. s 性の大きな混成軌道の C に結合した水素原子。
3. H^+ の脱離で生成する負イオンが共鳴構造を取り安定化する場合。

末端アルキンのカルバニオンの反応

アルキンの $C-H$ の H は酸性が強いため、酸-塩基反応を起こします。アルキンの金属塩を用いて $C-C$ 結合を作ることができます (アルキンの合成を参照)。

ナトリウムアルキニドと第一級ハロゲン化アルキルとの反応は、 S_N2 (2分子置換反応) ですが、第二、三級ハロゲン化アルキルとは $E2$ 反応となります。

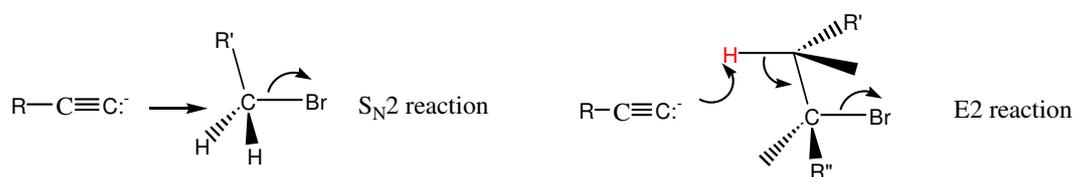


図 2. $C\equiv C^-$ は求核 (S_N) 試薬として働く。